

「ソフトウェア品質保証の極意」 ～現場の実践を活かし、さらに高めるアプローチ～

【メンバー】

独立行政法人情報処理推進機構（IPA） | 東洋大学

北村 弘
（発表）

源氏企画(元富士通株式会社)

鎌倉 洋一

元（株）構造計画研究所

川田 葉子

1FINITY(株)（富士通グループ）

小島 嘉津江

SOMPOシステムズ株式会社

松波 知典

※画像はCopilotにて生成したイメージです

本発表の目的

書籍『ソフトウェア品質保証の極意』（以下、「極意本」という）を起点に、品質保証の知見を現場でどう活かし、高められるかを報告する。

今年度は、講演・対話会、HP検索性改善、投稿などを通じて、プロの会(*)の成果と極意本の価値を現場に届ける活動を行った。

本日は、まず活動全体を共有したうえで、講演・対話会で得られた**手応えと学び**を中心に報告する。

*:ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会

今年度の活動全体：プロの会の成果と極意本の価値を現場に届ける

今年度は2つの柱で活動を行った。それぞれの成果を紹介する。

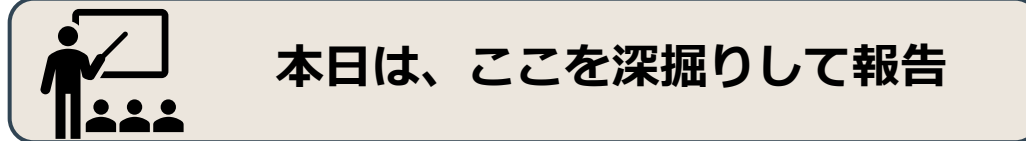
■ プロの会の成果をもっと「使われる知見」へ

- 利用可能な帳票・ツールを探し、現場で使いやすくする
- 期別だけでなくカテゴリ別にも探せるようにする

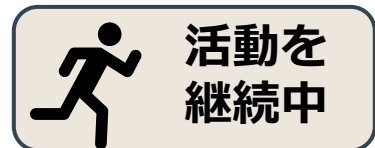


■ 極意本を「読まれる成果物」から「使われる知見」へ

- 講演・対話会の実施：現場の悩みを起点に、極意本やプロの会メンバーの経験を共有



- 投稿による発信：外部メディア投稿等を通じて、極意本の価値を広く伝える
- SQiPシンポジウムでの紹介：ランチセッションで極意本の活用方法を紹介



【紹介】プロの会HPの検索性改善、帳票・ツールの再利用に向けた整理

ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会HP

<https://www.juse.or.jp/sqip/community/bucyo/>

ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会 (旧ソフトウェア品質保証部長の会)

- 第17期の成果発表会 (7/22) を開催します! 【NEW】
- 第17期の情報を記載しました。
- 成果発表会 (7/23) 第16期の成果発表会資料を公開しました!
- 無料講演会「ソフトウェア品質保証の極意 品質保証部門長が伝える「肝」「勘所」とは?」を開催しました!
- 【活動成果ライブラリ公開!】品質保証を腹落ちさせる施策の導出～PM気質自己診断シート～
- 【活動成果ライブラリ公開!】ソフトウェア品質保証の肝～ソフトウェア品質保証活動に潜む煩悩を取り払う108の肝～

コミュニティ

- ・ ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会
- ・ ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会とは?
- ・ 今期
- ・ 過去の活動
- ・ 活動成果ライブラリ
- ・ 成果発表会資料の分類と参照



- ・ ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会 (旧ソフトウェア品質保証部長の会) とは?
- ・ 今期
- ・ 過去の活動
- ・ 活動成果ライブラリ
- ・ 成果発表会資料の分類と参照

■ 活動成果ライブラリ

- **PPT** [ソフトウェア品質保証の肝～ソフトウェア品質保証活動に潜む煩悩を取り払う108の肝～](#)
※ 本資料は各社の品質保証部長の知恵と経験を結集して、ソフトウェア品質保証の仕組みを効果的に運用するために、経験に基づいた悩み解決の勘所を、煩悩に引っ掛け108件を抽出し「ソフトウェア品質保証の肝」として整理しております。
※ 本資料はPPT形式で公開しています。
理由は、ダウンロードした方が、本資料をご自身の組織に適切な形でカスタマイズして組織内で利用いただくことで、本当の意味で各組織に役に立つ「肝」が完成すると考えるからです。
- **XLSM** [PM気質自己診断シート \(マクロつきExcelファイル\)](#)
※ 本シートは、第12期ソフトウェア品質保証部長の会 グループ2の活動テーマである、「品質保証を腹落ちさせる施策の導出～全ては、プロジェクトが目的を達成するための健全なプロジェクト推進のために～」の成果物の一つです。PMの気質を判断し、品質向上に向けた一助としてご活用ください。
※ 本シートをそのままご活用いただいたり、事業内容や開発の実態に用いただいたりできるように、excel形式で公開しています。
- **XLSM** [品質意識のものさしアンケート \(アンケート用紙\)](#)
※ 品質意識を高めるためには、多面的な取り組みが必要であり、そのり易くするため、品質意識を測るアンケートを考案しました。職場の行動、そして、本人の顧客指向という、4つの視点で設問を設定できるようにアンケート用紙にしました。
- **XLS** [品質意識アンケート集計ツール](#)
※ 前記のアンケート用紙の集計を行うツールです。一箇所のフォルダにグラフ表示します。集計した結果から組織の品質意識に関わる病処方箋を提案します。

帳票・ツールを
探せる

成果発表会資料の分類と参照

1. QA進化 (QA/品質保証の役割・あり方の変化)
2. 経営視点 (事業価値・顧客価値・マネジメントとの関係)
3. 品質の勘所 (考え方・原則・本質的ポイント)
4. 品質技術 (手法・レビュー・自動化・具体的技術)
5. 技術的環境変化 (DX・AI・クラウドなど環境変化への対応)
6. 人材・意識 (育成・学習・組織文化)

※ 上記カテゴリを選択することにより、該当資料をフィルタリングすることができます。

- | | | |
|-----|------------|---|
| 第1期 | PDF | 各社の品証部長が語るソフト品質保証の取り組み |
| 第1期 | PDF | 品質保証最前線 ～オジサン達も悩んでいる～ |
| 第1期 | PDF | ソフトウェア品質保証実態アンケート2010 (プレ調査版) |
| 第2期 | PDF | ソフトウェア品質保証実態アンケート2011 品質保証プロセス進化論 |

期別だけでなくカテゴリ
別にも探せる

本発表で深掘りする範囲：現場課題への適用（講演・対話会）

- 今年度の活動の中でも、本発表では、極意本の知見を現場課題に適用した講演・対話会を取り上げる。
- 講演・対話会では、参加者が抱える具体的な悩みを起点に、極意本の知見をどのように活かせるかを議論した。

以降では、次の3点を中心に報告する。

- ・ 現場の悩みの**言語化**
- ・ 対話を通じた**気づき**
- ・ 次の行動への**接続**

背景と問題意識：品質保証の知見は、なぜ現場で活かしきれないのか

- 品質保証の重要性は、多くの現場で理解されている。
- しかし実際には、納期・コスト・体制・要件変更などの制約により、理想通りに進められない場面がある。
- ここでの課題は、知識不足だけではない。
- 体系化された知見を、現場の状況に合わせて「使える形」に変えることが重要である。

そのために、極意本の内容を一方的に伝えるだけでなく、
現場の悩みを**極意本で解決する場**が必要だと考えた。

現場で顕在化する課題と実践上の葛藤

品質保証では、上流で品質を作り込み、プロセスで安定させることが重要とされる。

しかし現場では、次のような課題が起きる。

- 要件が不確実なまま進む
- 変更が頻繁に発生する
- 品質活動より納期・コストが優先される
- 品質保証部門と開発現場の距離が縮まらない
- 品質が個人の頑張りに依存してしまう

その結果、

「正しいことは分かっているが、現場ではその通りに進められない」という**葛藤**が生じる。

実践結果：対話会・講演から見たこと

■ 現場課題を持ち寄る対話会

- ・ 開発現場との関係性
- ・ 超上流への関与
- ・ 品質保証部門の立ち位置

参加者の具体的な悩みをもとに、プロの会メンバーの経験や知見を交えて議論した。

■ 組織レベルの品質マネジメントに関する講演

- ・ テーマ：上流工程で品質を作り込む
- ・ 扱った観点：
 - ・ 要件定義
 - ・ 受注時リスク
 - ・ 品質文化
 - ・ 教育・監査

これらの取り組みを通じて、極意本は「**現場の悩みを言語化し、知見を共有し、対話を深めるための共通言語**」になり得るという手応えを得た。

成果①：対話の場として有効だった

対話会後のアンケートでは、運営・進行・対話形式について肯定的な意見が多く得られた。良かった点は、次の3つである。

- **現場課題への事前準備が議論を促進した**

テーマや質問を事前共有したことで、議論が進めやすくなった。

- **初対面でも発言しやすい場になった**

ファシリテーションにより、率直な意見交換につながった。

- **専門家と直接対話できる価値があった**

リアルタイムの相談・議論で得た施策を即実践につなげられた。

この結果から、極意本の知見は、**対話形式で活用することで価値が高まる**という手応えを得た。

成果②：講演から、現場で使える知見につながった

参加者からは、具体的な手法から考え方の整理まで、幅広い反応が得られた。

- **すぐに使える手法・ツールを紹介**
品質会計、要件定義チェックリストなど
- **実践に向けた新たなヒント**
AI活用、レビュー、解析への応用可能性
- **品質保証の基本に立ち返る視座**
周囲を巻き込み、「やるべきことをやる」重要性

さらに、次の事柄を行動に移す後押しが得られた。

- 上流工程で品質を作り込む
- 組織の仕組みで品質を支える
- 受注時・初期段階からリスクを見る

極意本を起点に、プロの会の知見も含めた実践的な示唆は、
現場での具体的な行動や判断を支える材料になり得るという手応えを得た。

成果③：マインドの醸成

今までソフトウェア品質に関する講演を聴く機会が少なかった人達に対して、品質に関する**マインドの醸成**ができた。

- なぜ、上流工程で品質を作り込まなければならないのかが腹落ちした。
- 品質は組織の仕組みで支えていかなければならないこと。
- 受注時・初期段階からリスクを見ることが、品質確保につながること。

見えてきた課題：もっと深く、もっと使いやすくするために

今後に向けた改善点も明らかになった。

■ 時間不足

扱いたいテーマを十分に深掘りしきれなかった。

■ テーマ設定

次回は論点を絞り、より密度の高い対話にする必要がある。

■ 具体例・成果物例の提示

要件定義やチェックリストの実例があると、現場で活用しやすい。

■ 社内展開の仕組み

参加者個人の学びを、チームや組織に広げる工夫が必要である。

今後は、

対話の質を高める設計と学びを組織内に展開する仕組みが重要になる。

結論：極意本は“対話を生む実践知”である

今回の実践・検証から、極意本は次の役割を持つことが確認できた。

- 現場課題を話し合う共通言語になる
- 現場で使える具体的な示唆を与える
- 参加者の次のアクションにつながる

極意本は、現場の悩みに対して、すぐに使える知見や考え方を与えてくれる。
さらに、個々の現場に合わせた解決策を考えるための“対話の起点”にもなる。

結論として、
極意本は、**現場の実践を高めるための“対話の起点”**として有効である。

今後のアプローチ：知見を“使われる仕組み”へ発展させる

今後は、極意本とプロの会の知見を、より多くの現場で**使われる仕組み**へ発展させていく。

- 対話会を“深掘り型”へ進化させる

テーマを絞り、現場課題により深く踏み込む。

- 発信を“紹介”から“活用事例の共有”へ広げる

対話会で得た学びや現場適用の示唆を発信する。

- 知見を“蓄積”から“継続的な伝承”へつなげる

プロの会の成果を、次の現場・次の世代に活かす。

最後の締め：

品質保証の知見を“知っている”から“使える”へ、
そして“現場で成果につながる”状態へ高めていく。